

登録コード	J5410300	開講年度	2026			
授業科目	労働経済学					担当教員 三上 亮
英文授業名	Industrial Policy					副担当
単位数	2	講義期間 後期	曜日・時限	木曜・2 時限		対象学年 (20カリ対象科目) 経: 3年
講義室	経法第2 講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	経法20加 経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身に付け、それを発揮できる力を身につける。 社会資源の制約のなかで解決方法を創りだす能力、多様な価値観の中で対立を回避する危機管理能力を応用力として身に付け、それを発揮できる力を身につける。 経法20加・応用経済 環境問題、少子高齢化、自然・経済リスクの管理、コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて、現実的に解決を探る際には、法学、さらには、理学・工学・医学等の関連領域との協力が必要となる。このために、関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。					労働市場の機能や問題、労働政策についての理論を説明できるようになる。 労働市場での政策や問題について、理論に基づいた仮説を立てた上で、議論できるようになる。 労働経済学で取り扱うさまざまなトピックについて、予備知識のない相手にも分かりやすく、論理的に説明ができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	本講義では主に、労働市場での様々な現象を説明する際に用いられる、標準的な数理モデルについて学ぶ。労働時間や賃金など、働くことに関する現象は、労働力を取引する労働市場で決まります。労働経済学はミクロ経済学の応用分野の1つであり、労働市場に関するさまざまな問題について分析する学問です。労働者はどのように就業するか否かを決めるのか、労働時間はどのように決まるのか、なぜ賃金格差が生まれるのか等の問いに対する理論的背景を学ぶ。さらに、理論に基づく仮説がどのように導かれるのかについても学ぶ。					
(5)授業計画	第 1 回: インストラクション (労働経済学とは何か?) 第 2 回: 労働供給モデル 第 3 回: 労働供給モデル(最適化問題) 第 4 回: 労働供給モデル(比較静学分析) 第 5 回: 労働需要 第 6 回: 労働需要 (比較静学分析) 第 7 回: 労働市場の均衡(完全競争市場モデル) 第 8 回: 労働市場の均衡(独占市場) 第 9 回: 労働市場の均衡(最低賃金) 第 10 回: 賃金格差(人的資本論) 第 11 回: 賃金格差(学歴間賃金格差の理論) 第 12 回: 賃金格差(男女間賃金格差の理論) 第 13 回: 失業 第 14 回: サーチ理論 第 15 回: まとめ、アンケート 期末試験					
(6)成績評価の方法	課題(原則、毎回の講義で出題する)40%、期末試験60%で評価する。					
(7)成績評価の基準	講義中に示した例題あるいは課題と同レベルの問題が解ければ「標準的である」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。					
(8)事前事後学習の内容	講義に使用する資料を事前にダウンロードして持参し、資料を元に毎回予習・復習を行うこと(第 1 回から第 15 回の講義ごとにそれぞれ60分程度)。また、必要に応じて講義中に紹介した参考文献等を適宜参照すること。					
(9)履修上の注意	講義中「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」および「計量経済学」、「統計学」の初歩的な内容について触れる。講義の中でも説明を行うが、理解に不安のある者は適宜参考資料を参照し、各自自習すること。単位取得のためには、毎回の講義内容を理解することが必要である。					
(10)質問,相談への対応	授業中の質問を歓迎する。個別の質問がある場合は、事前にメールでアポイントメントを取り、オフィスアワー(木曜日14:40 16:10)に研究室に来ること。また、アポイントメントを取る際に相談内容を教えて頂ければ、より良い対応ができます。					
【教科書】	特になし					
【参考書】	授業中に適宜指示する。					